

地域の認知症対策を
進めよう

鈴木啓太郎 議員

問 高齢社会の到来を見据えて、認知症対策と地域包括ケアの対策が急がれるが。

答 介護が必要となっても住み慣れた地域で暮らせるように、在宅医療と介護の連携を進めるほか、地域福祉の生活支援

サービスを来年度より開始する。また認知症初期支援チームの設置等を進めるとともに、サポーター講座など啓発活動に力を入れていく。

福祉総合支援チームの働き

問 4月にチームが発足してから、どのような活動を進めてきたのか。

答 7月末まで生活困窮者の相談件数は64件、関係機関からの支援要請は37件。ごみ屋敷や引きこもりなどのケースで、本人の健康や生活に留意した支援を工夫して解決に当たっていく。

障がい者への差別をなくす

問 障がい者差別解消法が来年4月から本格施行となる。どのような方針で臨むのか。

答 障がい者が社会生活で受ける制限は、障がいによるものだけでなく社会における障壁によって生じるという考え方を採用し、広く意見を聞いて合理的配慮を進める。

福岡高校の跡地利用

有山 茂 議員

問 今後の利活用は。

答 所有者である埼玉県と協議を行っているが、合意には至っていない。

スポーツゾーンの今後の整備

問 大井総合体育館の老朽化対策は。

答 周辺の施設も含め、計画的な修繕を実施し延命を図りたい。

問 今後の再整備の考えは。

答 運動公園内の施設と重複する課題を整理して、未利用地を含めて検討をする。

問 ナイター設備の設置は。

答 他のナイター設備のある場所の利用促進を図る。

三芳スマートICのフル化

問 接続する市道第5-

関越自動車道西側地区の雨水対策

問 大井西中学校付近の雨水調整池の進捗状況は。

答 雨水調整池整備工事は平成28年3月完成を目途に工事を進めている。

問 県道狭山ふじみ野線周辺の雨水対策は。

答 都市計画事業認可を受けており、概ね5年間で整備をする計画である。



旧福岡高校

市民が楽しみながら
取り組める健康事業に

伊藤美枝子 議員

問 元氣・健康マイレージは、健診や健康イベントへの参加などでポイントを付与し、ポイントを商品券などと交換できるシステム。先進市の事例を通して提案してきた。今後の計画とあらゆる世代が取り組める工夫は。

答 市民ニーズの実態を把握し、来年度は、事業



学校給食

安全・安心の食物アレルギー対策を

問 食物アレルギーの掌握は、医師の診断に基づいた申請が必要では。

答 次年度より申請の際は医師の診断書または、

証明を得て申請していただき、給食センターとの3者面談で個別の取り

複合災害の危険認識

谷 新一 議員

問 地域防災計画で盛り込まれなかった複合災害の危険認識については。

答 豪雨や地震などの自然災害が同時または時間差をもって複合的に発生した場合、単独の災害よりも被害が大きくなり、さまざまな障害が想

定される。複合災害を意識して不測の事態に備えていきたい。

国道254号バイパス周辺の企業誘致

問 国道254号バイパス周辺の企業誘致に向け、関係機関と協議すべ

新河岸川周辺の面的整備

問 下福岡地域では、旧福岡高校の跡地利用を控

組みプランを作成、アレルギー除去食を提供する。

問 事故を未然に防ぐために誤配・誤食のチェック体制を。

答 調理作業工程ごとにアレルギー混入防止のマニュアルを作成し混入の防止と、除去食対象者の情報などを読み上げ、配食する。

問 アナフィラキシーショックなど緊急時を想定しての訓練を。

答 訓練を実施したい。

集合住宅への家賃補助

問 少人数学級を実施した自治体から、欠席率や不登校が減った成果が報告されている。現在、小学校1、2年生は35人学級だが、ひとり一人の児童に行き届いた教育ができるように、まず小学校3年生まで35人学級を拡大できないか。

答 来年度を考えた時2学級増加となり県費負担職員以外に市費の職員を配置しなければならぬ。教室を確保するのも大変なので難しい。

道路の管理

問 草や枝が伸びて通行の妨げになる危険な場所がある。日常的な管理が必要ではないか。

答 市では年に2、3回作業しているが、更に愛護会やロードサポートに協力をお願いしていく。

旧亀居保育所周辺の安全対策

問 保育所が廃止されてから、周辺が真っ暗で危険。安全対策は。

答 地域の見守りを強化するようお願いすると同時に、夜間パトロールも検討していく。



夜は真っ暗な旧亀居保育所周辺